

3 ビジョンにおける「注視する指標」

基本理念及び目指す姿に近付いているかを検証するための参考指標として、毎年、2つの指標「去年と比べた生活の向上感」「現在の生活の充実感」について調査を行い、その推移等を注視しながら、施策を推進することとしている。

今回(平成30年度)の調査では、「去年と比べた生活の向上感」について、「向上している」と回答した人の割合は13.3%で、対前年度で1.2ポイント増、平成27年度と比べて3.5ポイントの増加となった。

「生活の向上感を感じるために必要なこと」は、7割以上の人が「所得・収入の増加」と回答しており、「経済的ゆとり」を重視している人が多い。

また、「低下している」と感じる人は、「向上している」と感じる人と比べて、「生活費・教育費などの出費の減少」や「自分や家族の健康状態の改善」と回答した割合が高いことから、「経済的ゆとり」や「心身が健康であること」の必要性をより強く感じていると考えられる。

「現在の生活の充実感」については、「充実感を感じている」と回答した人の割合は62.9%で、対前年度で3.6ポイント増、平成27年度と比べて5.7ポイントの増加となった。

「どんな時に充実感を感じるか」については、5割以上の人が、「ゆったりと休養しているとき」と回答しており、「時間的ゆとり」を重視していることがうかがえる。

また、「充実感を感じていない」人は、「充実感を感じている人」と比べて、「仕事に打ち込んでいるとき」と「家族だんらんするとき」と回答した人の割合が特に低くなっていることから、充実感を感じるためには、仕事と家族の両方が重要な要素であることが推察される。

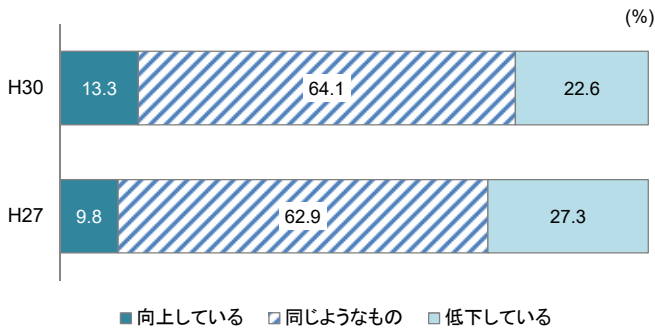
「仕事と暮らしの考え方」については、「仕事も暮らしも充実させたいと思い、取り組んでいる」人は32.8%で、欲張りなライフスタイルを実践できている人は3割程度に留まっている。

一方で、「仕事も暮らしも充実させたいが、仕事が忙しく、暮らしの充実はあきらめている」「仕事も暮らしも充実させたいが、育児や介護・家事などの事情があり、仕事はセーブしている」など、仕事も暮らしも充実させたいと思っているものの、仕事や育児・介護などの理由で実践できていない人が依然として3割程度存在している。

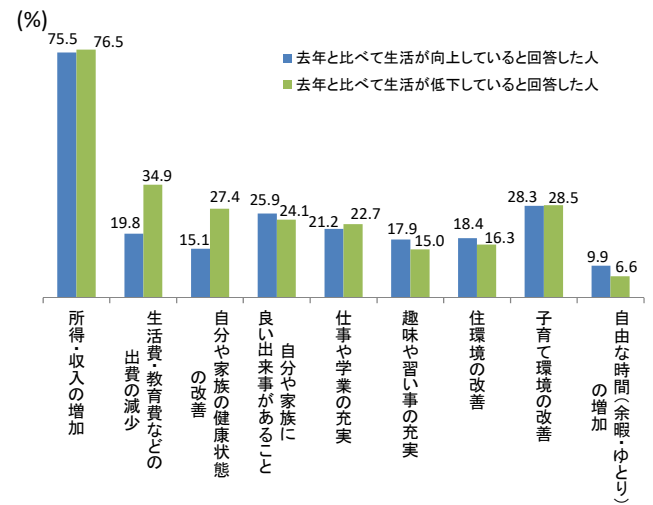
こうした結果から、県全体としては、生活の「向上感」や「充実感」は増加し、経済情勢を見ても、県内総生産及び一人当たりの県民所得が平成25年度から平成28年度まで4連続でプラスとなるなど堅調であるものの、県民の個々の状況を見ると、経済的・時間的ゆとりや心身の健康など希望が十分にはなえられているとは言えず、育児や介護など、暮らしの中で不安や負担感を抱えている人も依然として一定程度存在しているといえる。

このため、県内産業の生産性向上を図り、県内経済の持続的成長を実現することによって、県民の「経済的・時間的ゆとり」を創出するとともに、子育ての不安や負担感を軽減するための取組や、地域で医療・介護を安心して受けられる体制の構築など、「希望をかなえる後押し」や「心身の健康」など、欲張りなライフスタイルの実現に向けた施策を一層推進していく。

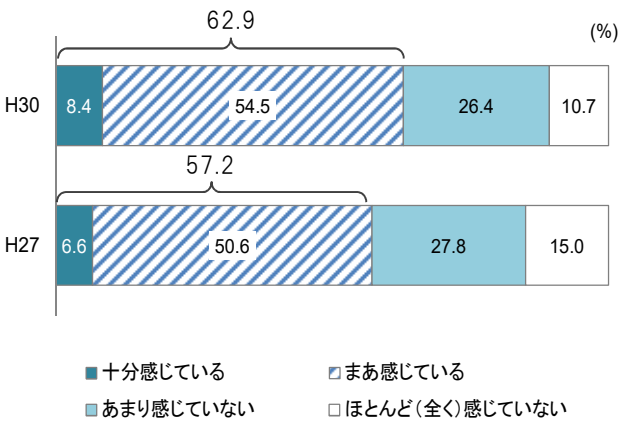
◇去年と比べた生活の向上感



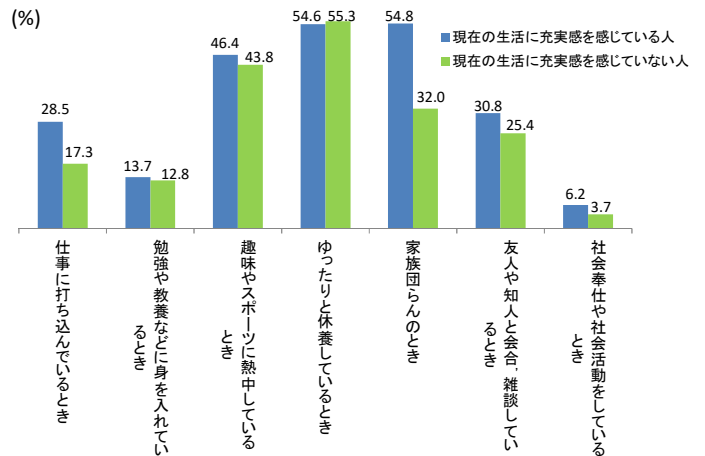
◇生活の向上を感じるために必要なこと(H30)
(複数回答可)



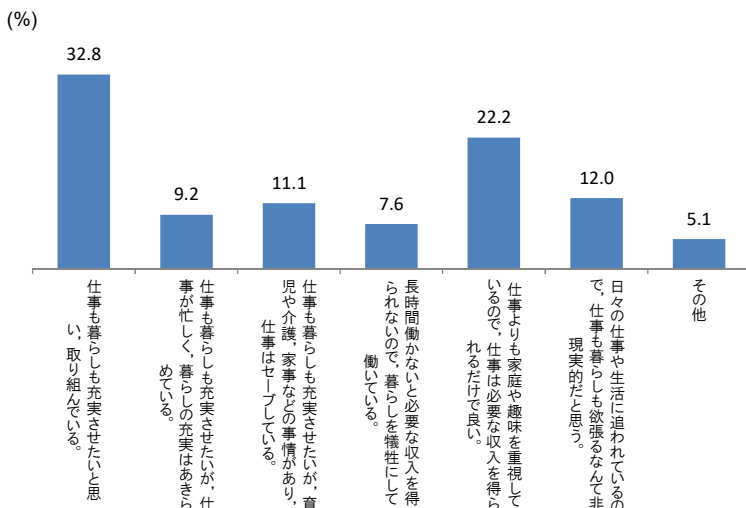
◇現在の生活の充実感



◇どんな時に充実感を感じるか(H30)
(複数回答可)



[参考]仕事と暮らしの考え方(H30)



<生活の向上感・充実感に関する意識調査>

		平成 27 年度	平成 30 年度
調査対象	母集団	県内在住の 20 歳以上の男女	
	標本数	2,500 人	1,500 人
調査時期		平成 28 年 2 月	平成 31 年 2 月
調査方法		インターネット調査	
回収結果		2,500 人	1,679 人